

黒木勘藏年譜

明治十五年

九月十日、長野縣諏訪郡玉川村大字粟澤に福田房之丞の二男として生れた。福田家は代々農を業としてゐる。

明治二十九年——三十六年

郡立諏訪實科中學校に入學し、三十二年、同校第三學年を修了し、爾後一年間家にあつて普通學を修めた。

三十三年、あらためて長野縣師範學校へ入學したが、三十六年十二月、中途退學した。

明治三十七年——四十一年

四月、早稻田大學高等豫科文科へ入學し、翌三十八年七月同科を終へて、九月、同大學大學部文學科へ進んだ。哲學研究に没頭し、三十九年九月、特待生を命ぜられたが、其の後、極度の厭世觀に陥り、死を圖らんとしたことさへあつた。四十一年七月、早稻田大學文學部を卒業した。論文は『人格的個人主義』と題した。同窓に、伊藤輔利・北吟吉・小澤恒一の諸氏がゐる。同四十一年十一月、長野師範學校在學當時よりの恩師

たる班山高野辰之の懇憑に依り、哲學研究を斷念して、歌謡・演劇方面の研究へ轉身した。社會學的研究の對象を、民衆藝術及び民衆教化機關としての淨瑠璃にとつたとは自らの語るところである。而して、同月、高野博士の斡旋にて東京音樂學校雇となり、邦樂調査に従事して、同博士指導の下に、『近世邦樂年表』の編纂に着手した。

明治四十二年

春、福井市豐町黒木安右衛門長女直子と婚約した。爾後、東京代々木なる高野博士の許に寄寓し、中等學校教科書の編纂を助けた。冬、結婚して、本郷區西須賀町に寓居し、やがて黒木氏を稱した。七月、東京音樂學校邦樂調査囑託を命ぜられ、十二月、豫てから編纂を續けてゐた『近世邦樂年表 常磐津、富本、清元之部』が完成を告げた。

明治四十五年

三月、前記の『近世邦樂年表 常磐津、富本、清元之部』を東京音樂學校編纂の名に於て六合館から公刊した。

大正三年

二月、引續き編纂中だつた『近世邦樂年表 江戸長唄、附大薩摩節之部』が完成し、五月、前同様に東京音樂學校編纂の名に於て六合館から公刊した。

大正四年

九月、東京音樂學校國語科講師を囑託せられた。

大正五年——十年

三月、邦樂取調の爲、水戸市へ出張を命ぜられた。十月、義太夫節調査の爲、大阪市へ出張を命ぜられた。八年十月、再び大阪へ出張を命ぜられ、義太夫節の調査がいよいよ進捗し、『近世邦樂年表 義太夫節之部』編纂の準備が次第に整つて來た。尙、この間、主として雑誌『邦樂』誌上に、歌謡・演劇に關する數多の論考を發表した。

大正十一年

八月より降つて十三年一月に亘り、公務の餘暇を以て、高野辰之博士と共に、『近松門左衛門全集』二十卷を校訂編纂し、春陽堂から刊行した。因に、豫告にあつた首卷一冊は、公刊するに至らなかつた。

大正十二年

四月、早稻田大學文學部國文科講師となり、『淨瑠瑠史』の講座を擔當した。また、第四臨時教員養成所國文科講師も囑託せられた。九月一日、關東地方大震災の爲、麴町區飯田町六丁目の寓居は全焼し、藏書並に『近世邦樂年表 義太夫節之部』の草稿の大半が烏有に歸した。

大正十四年

三月十二日、東京高等學校講師となり、同月三十一日、東京音樂學校講師を辭した（但、同校邦樂調査囑託は元の如くである）。同時に、第四臨時教員養成所囑託も辭任した。六月、高野博士と共に、『元祿歌舞伎傑作集』一部二卷を校訂編纂して、早稻田大學出版部から刊行した。この種出版物としては、稀有の豪華版で

ある。同月三十日東京高等學校教授兼教諭に任ぜられ、高等官七等に叙せられた。七月、同校圖書課長を命ぜられ、八月一日、從七位に叙せられた。

大正十五年

一月、『近世邦樂年表 義太夫節之部』の編纂を終へた。この年代、各種出版物への歌謡・演劇關係の寄稿が多い。十一月、『近松名作集上』を日本名著全集中の一冊として、日本名著全集刊行會（興文社）から公刊した。その近松評傳並びに作品解題は、斯界に於ける劃期的なものであつた。

昭和二年

一月、『近世邦樂年表 義太夫節之部』を、東京音樂學校編纂の名に於て、六合館から公刊した。まさに十年苦心の結實である。二月、『近松名作集下』を日本名著全集刊行會から公刊した。七月四日高等官六等に叙せられ、次いで八月一日、正七位に叙せられた。十二月、『淨瑠璃名作集上』を日本名著全集刊行會から公刊した。

昭和四年

二月、『淨瑠璃名作集下』を日本名著全集刊行會から刊行。六月、改造文庫の一冊として、『曾根崎心中・心中天網島・女殺油地獄』を校註上梓した。尙、以下續刊の豫定であつたが、意外に早かつた他界の爲に、自ら中絶した。十月、新修の帝國文庫第十編として、『紀海音淨瑠璃集』を博文館から刊行した。十一月、從來發表した歌謡・演劇に關する論考中から二十餘篇を抜き、『近世演劇考説』と題して六合館から公刊した。

同月、『歌謡音曲集』を日本名著全集刊行會から刊行。十二月二日、高等官五等に叙せられ、同月十六日、從

六位に叙せられた。

昭和五年

十月、盲腸炎を患ひ、東京帝國大學醫學部小石川分院に於て、同八日急逝した。享年四十九。福井市豊町の正藏寺に葬つた。

尙、歿後の昭和十一年五月、新潮文庫の一冊として『近松研究』(藤村作・加藤順三兩氏と合著)が刊行され、十七年一月に大東名著選『近松門左衛門』、同年九月、同じく大東名著選『近松以後』が、それぞれ大東出版社より刊行された。

(鈴木かよ子記・編纂者補訂)